

2024 年第 22 週の報告です。

手足口病が増加しています。京都市南区・伏見区、乙訓、山城南、南丹は先週に引き続き警報レベルで、今週新たに京都市右京区でも警報レベルになりました。乙訓と山城南では咽頭結膜熱の警報レベルも継続しています。

全数報告対象の感染症は、結核が 4 件、レジオネラ症が 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌感染症(入院例)が 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症と侵襲性肺炎球菌感染症が各 2 件、梅毒が 3 件報告されました。また、基幹定点から無菌性髄膜炎が 1 件、マイコプラズマ肺炎が 3 件、眼科定点からは流行性角結膜炎が 6 件報告されました

手足口病の流行が全国的に拡大しています。京都市では警報レベルに達しており、京都府でも過去 5 年で最も多い数字となっています。例年より流行が早く、大流行した 2019 年も 6 月末頃から爆発的に感染者が増えており今年も注意が必要です。

感染者は 7 割が 2 歳以下ですが、成人の感染例も報告されています。流行拡大を予防するため、流水と石けんで十分に手を洗い、集団感染に注意してください。タオルの共有はやめましょう。便を介しての感染もあり、感染後 2～4 週間は注意が必要です。感染しても発病しないままウイルスを排泄することもあると考えられています。日ごろから排泄物の処理は適切に行い、処理後は手を洗い、ゴミ箱やその周囲は定期的に消毒しましょう。消毒は通常のアルコール消毒ではなく、酸性アルコールもしくは次亜塩素酸ナトリウムを用いてください。

基本的には軽い発熱と水疱性の発疹のみで改善しますが、まれに髄膜炎や脳炎を合併し重症化します。高熱が 2 日以上続いたり、頭痛や嘔吐、呼びかけに答えずぐったりしていたりする場合はすぐに医療機関を受診してください。